

根 研究会のあり方について

「根の研究」編集委員会

本会が発足して1年が経過しようとしています。第3号の巻頭言でご案内申し上げましたように、今後の本会のあり方について編集委員会で数回にわたる討議を重ねましたので、ここにその大要を紹介致します。これを1つの判断材料として、同封のアンケートにご回答下さいますようお願い申し上げます。

1. 研究会の運営・体制について

事務局は現在、東京大学農学部栽培学研究室に置かれている。そして会の運営は、事実上6人のニューズレターの編集委員の合議によって行われている。この6人の編集員は本研究会の設立に当初から関わってきた会員である。会員の了解が得られることを前提とし、当面事務局は現状のままとし、評議員などの役職はできる限り置かず、会の運営はこれまでどうり編集委員の合議により進める。かりに現時点で選挙等で役職を決めてしまうと、特定の学会員のみで大半が占められてしまう危惧も一部の委員から表明された。

今後さらに、様々な学会で活動されている会員の方々より編集委員を募り、委員会の規模も大きくし、幅広い分野をカバーしうる研究会を目指す。ただしその場合、編集委員間の連絡を緊密にとる必要があるため、経済的な問題が浮上する可能性がある。会員数と活動に見合った適正な規模で、健全財政を目指すことが重要である。

2. 将来の活動について

これについては、現在編集委員の中でも意見は大きく分かれている。1つは、なるべく早い機会に本会を学会として一般に認知されるよう努力し、それに伴い、業績として引用できるような学会誌を刊行することを目指す、というものである。学会誌の内容は、原著論文以外に、総説、資料、解説的な記事も歓迎すべきであり、英語の論文も掲載できるもの、あるいは英文誌が望ましい。もちろんこの場合、会費の大幅な値上げが伴うことは言うまでもない。

もう1つは、将来的には学会にして、学会誌も刊行できることが理想ではあるが、現時点では時期尚早とする意見である。その主な理由として、資金や体制面で無理がある点、現在の会員はそれぞれ既存の学会で活動しているわけで、

「根研究会」が研究結果の最良の発表の場にはなりえない点などが挙げられた。

さらに、将来にわたって本会は学会とせず、「根」という共通の問題意識を核とした、異なる学会に所属し、活動する研究者のためのIntersociety的な組織として、維持発展させるべきである、とする意見もあった。

3. ニュースレターについて

ニュースレター「根の研究」は、本研究会の最も重要な活動の1つとして位置づけるという点で、ほとんどの編集委員の意見は一致している。そして、かりに将来英文誌が刊行されることになっても、和文ニュースレターとして存続させるべきである。体裁は二の次とし、内容を充実させる。中身として、幅広い分野の会員に役に立つ記事、例えば、研究紹介、総説、カレンダーに加え、植物（作物）栽培現場の現状紹介や、他の分野の研究者または研究者以外の会員も想定して、根の研究者への要望なども掲載していく。

掲載記事については、もちろん投稿を歓迎するが、さらに、編集委員からの依頼によって優れたものを掲載し、本誌の内容を充実させる。この仕事を編集委員会の重要な役割として位置づける。

4. 研究集会

ほとんどの会員が他の学会との掛持ちであることを考慮すれば、形式やオリジナリティーの点で厳密な講演会というのは無理がある。発表の中身は原著発表に限らず、様々な形の発表（研究途上のもの、総説、問題提起など）が行われることが望ましい。気楽な雰囲気、活発で自由な意見交換ができる場になりたい。しかし、集会等で得られたアイデアを他の会員が利用する場合には、オリジナリティーについて十分な配慮が必要である。また、要旨集については簡単なものでよいので、形に残るものを作る必要がある。実施頻度は年1回程度でよいとする委員から、なるべく頻繁に開催すべきである、という意見まであった。

また、他の学会やシンポジウムの機会を利用したり、あるいは独自で、国内外の研究者による研究集会を開催する。その際、質の高いProceedingをできる限り出版し、活動の記録として残し、実績を積み上げることが本会の発展につながるであろうという意見も出された。

5. その他の活動

現在、「農業および園芸」に根に関する研究紹介あるいは総説的記事を連載する計画がある。また、文部省科学研究費総合研究（A）の計画もある。これ

らを利用しつつ、根に関する様々な分野の知見と到達点を整理し、根の研究に関する本を出版することを目指す。これを土台とし、将来個別的な、しかも実質的な共同研究がいくつか生まれることが期待される。

本会の設立理由の1つとして、根の研究者の国際的な緩い連合体である I S R R (International Society of Root Research, これまで3回国際シンポジウムを開催してきた) のシンポジウムを、将来日本へ誘致する際、受け皿となる組織が必要である、ということがあった。このシンポジウムの招致については、委員の中でも積極的な意見と消極的な意見とがある。いずれにしても、日本にも根の研究者からなる組織が活動していることを、海外に知らせていく必要があろう。

会員からの声

- 11月末までに事務局に届いた「プロフィール登録用紙」の書き込み意見欄からの抜粋です。
- ◇ 土壤中での根粒形成においても、根粒菌の分布状態や根の伸長に関する方向からの研究アプローチが必要と考えています。意見交換を希望します。
 - ◇ 会報を拝見いたしますと、もっぱら、根の土壤中における生理学が、会の主なテーマとなっているように思われます。是非、植物組織培養の分野も含めて下さい。
 - ◇ 昨年度までは、愛媛県で桑園土壌を対象にして研究しておりましたが、今は行政の仕事をしています。情報収集したいので入会させていただきます。
 - ◇ 1990年4月に役職につき、それ以降は直接研究に携わっていませんが、根には大変興味を持っています。
 - ◇ 年2、3回の割合で根に関する様々な立場から論議できる場を提供して欲しいと思います。
 - ◇ 研究会の会費は、年間10,000円は必要であると思います。そして、会誌・研究会活動を今後より一層に充実すべきと思います。研究会は東京に集中することなく、地方都市でも積極的に実施してもらいたいです。
 - ◇ 「根研究会」は語呂があまりよくないので「根系研究会 Root System Research」としたらよいと思いますが、ご検討下さい。

